

応用数学専攻

人材養成および教育研究上の目的

応用数学専攻においては、理学研究科の理念のもとに、広い視野に立って数学及び情報科学に関する精深な学識を涵養し、それぞれの専門分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要的能力を有する人材を育成することを目的とする。博士課程前期では、数学及び情報科学に関する学識を養い、それを応用する能力、それに基づいた研究能力を修得させる教育を行う。博士課程後期では、前期課程の教育をさらに深化・発展させ、自立して研究活動を遂行し得る高度な研究能力を備えた人材の育成を図る。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

応用数学専攻では、数理科学に関する深い学識を持ち、自立して研究活動を行い得る能力を持つ人材、及びその学術的素養を活かして社会で活躍できる専門的職業人を育成することを目的としている。

博士課程前期では、一定水準以上の学力があつて、かつ数理科学に興味があり、問題解決に向けて積極的に取り組む人材を受け入れる。成績優秀な学部学生には3年次で飛び級制度、4年次では推薦入学制度を設けている。また、全ての専修において、一定の学力水準を満たせば、他学部・他学科・他大学の学生や社会人・外国人留学生も積極的に受け入れる。

博士課程後期では、修士論文の内容の精査と面接審査等によって、探求心と目標とする研究を遂行するための能力の有無を見極め、かつ問題解決に向けて意欲的に取り組む姿勢を評価する。また数理に関わる諸問題の解明に興味を持ち、新しい考え方で研究を遂行する意欲のある社会人・外国人留学生も受け入れる。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

博士課程前期では、専修ごとに「講究」2科目を設置している。この講究では、輪読・論文抄読等の少人数教育を通じて、専門分野に関する知識を修得すると共に研究能力や自己表現力を涵養する。さらに多くの選択科目を設置し応用数学専攻の他専修分野について広く学べるだけでなく、他専攻の選択科目も受講でき、専門にこだわらない多面的かつ先端的な知識を修得できるようにしている。

博士課程後期では、前期課程の教育・研究をさらに深化・発展させ、自立して研究活動を遂行し得る高度な能力を備えた人材の育成を図る。このため、学生の学位取得に向け





た自主的な研究推進と指導教員のもとでのゼミナールを重視し、数理科学に関する深い学識を身につけることができるよう、専門的な特修科目を設置している。

❖ **ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）**

博士課程前期では、広い視野に立って深い学識を修め、専門分野についての研究能力又は専門分野に関わる職業に従事するに必要な能力を有することを判断基準とする。修了に必要な授業科目の単位の取得に加えて、修士論文を提出させ、審査を行う。

博士課程後期では、研究成果が新たな知見を含み、研究者として自立して研究活動を行い得る能力又は数学や情報科学に関わる専門的な職業に従事するに必要な高度な能力を有することを判断基準とする。博士（理学）の学位授与には査読付き学術誌に一定基準数以上の論文が掲載されていることを基本要件としている。修了に必要な授業科目の単位の取得に加えて、博士論文を提出させ、審査を行う。

